

平成26年度タウンミーティング

期 日	平成27年3月18日(水) 19:00～20:55
会 場	大洗町漁村センター 研修室
対 象 者	福祉団体 (高年者クラブ, 盲人福祉協会, 身体障害者福祉協会, 手をつなぐ親の会, 母子寡婦福祉連合会, 民生委員児童委員協議会, 遺族会, シルバー人材センター, 社会福祉協議会, ボランティア連絡協議会)
町 執 行 部	町長, 副町長, 理事兼まちづくり推進課長, 町長公室長, 教育委員会次長兼学校教育課長, 福祉課長
出 席 者	65名

町 民 : ・千代田テクノルの大貫台事業所が新しく完成したが, 町からの新規就業者は何人いるのか。

町 長 : ・社員は増えているが, 日本原子力研究開発機構隣接の千代田テクノル事業所で働いていた方が移行したり, 派遣を雇用したりで, 町民で新規雇用された方は少ない状況と思われます。今後業務が拡大していけば, 雇用が創出される環境が生まれるのではないかと。

町 民 : ・大貫台事業所に勤めている方で, 町内に居住している方は何名いるのか。

町 長 : ・地元を中心に近隣自治体から通勤をしている方々が大半である。東京から移住した方は本当にわずかである。

町 民 : ・祝町に完成した町営住宅(二葉緑住宅)の入居者で他市町村からの転入はどのくらいあったのか。

都市建設課長 :

・二葉緑住宅は3棟51戸を整備した。このうち10家族ほどが町外からの転入であった。

町 民 : ・1家族3人としても30名増加した訳だが, それでも人口が減っているのか。

町 長 : ・自然減(出生数より死亡数が多いこと)によるものである。

町 民： 地方創生について

- ①雇用に関する創出とは，企業や工場を持ってくるといくことか。
- ②「新しい人の流れをつくる」とはどういう流れか。
- ③「地域と地域を連携する」と人口が増えるのか。

理事兼まちづくり推進課長：

- ①雇用の創出というと企業誘致ばかり連想するが，新たに業を起こす，既存の企業の人員増加なども雇用の創出である。
- ②都会で仕事や生活している方々に，大洗町に移り住んでいただくというのが「人の流れ」である。住みやすい住環境を整え，子育て施策が充実した町にすることで，人の流れを呼び込むことができると考えている。
- ③例えば，涸沼を活かした新しい観光スタイルを創生すれば，交流人口が増加し，やがて移住者が誕生するなどが考えられる。

町 民：

- ・子どもの数が減少しており，小学校は統廃合により4校から2校へ減少という現状にある。また，子ども達が就職する際に雇用先が大洗にはなく，他市町村に就職せざるを得ないことが人口減少の原因のひとつである。若い世代が大洗町に定住するためにはどのような施策が必要か。
- ・ガルパンファンの移住者いると聞くが，就労の場がなければ他の場所へ移ってしまうのではないかな。人を留める方策が必要なのではないかな。

理事兼まちづくり推進課長：

- ・若い世代にどういう業種が人気で，町に留まり働くことができるのか，それについて方向性を定めるのが，まさに総合戦略の中身そのものである。
- ・若者の意見を聞き，転出者はどうして転出するかを分析し，町に留まってもらえるような職場や環境を考えていきたい。皆さんからも是非ご提案をいただきたい。

町 長：

- ・これまでの国の歩みは，大都市に人口を集中させる施策であった。地方は，企業誘致や地場産業の振興を通じて努力してきたが大都市の勢い・エネルギーには抗えないものがある。
- ・大学に進学する場合，大都市へ行って学ぶことになる。卒業しても大都市で就職する場があり故郷に帰らなくなってしまう。

こうしたことから，８９６自治体が消滅の危機にありという調査もあり，国も本腰を入れはじめ，地方創生の流れとなった。

- ・地方に機能を移転した企業への税制の優遇措置など，地方で出来るものは地方に送ろうという動きになりつつある。
- ・都市部の若者へのアンケートでは，農村回帰の需要は20～30代では30%以上といわれている。一方，地方の農業は高齢化が進んでおり，沢山の耕作放棄地が存在する。地方が迎え入れられる仕事場をつくっていかなければならない。
- ・企業誘致だけで雇用の創出を図るばかりでなく，地場産業の振興のなかでも雇用の創出は考えていかなければならない。
- ・大洗町は500万人の観光客を迎える町でありお茶を飲んで休める「とまり木」が少ない。智恵を出し，新しいアイデアで業を起こせるのではないか。

町 民： ・南小学校の備品が1億円かかると説明があった。城里町では，庁舎建替えにあたり，廃校の備品等を再利用したと聞いているが，大洗町でも再利用出来ないのか。

教育委員会次長兼学校教育課長：

- ・備品については再利用出来るものは再利用する。大洗小学校の開校時に児童の机と椅子を新調した経緯があるので，同じ対応としたい。なお，かなりのウェイトを占めているのは給食室の増改築に係る備品である。

町 民： ・巡回バスと大洗鹿島線と接続が悪いので改善して欲しい。

町 長： ・新年度に向けての見直しをしたい。
・今後も町民の足として買い物や病院へも行きやすい環境をつくっていききたい。

町 民： ・「若い世代の結婚，出産，子育ての希望をかなえる」を基本目標にしていながら，出産に対応する病院は町内にないことについて伺いたい。

町 長： ・産婦人科医，小児科医の確保は，水戸医療圏でも難しい状況にあるが安心した子育て環境には大事なことでと考えている。町内には総合病院として大洗海岸病院があるので，拡充を働きかけたい。

閉 会 20 : 55